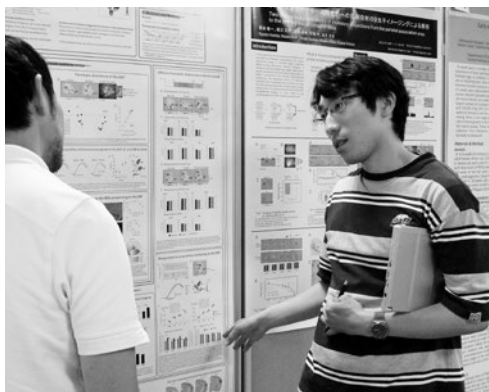


この度は第20回有任記念学術奨励賞に選出して頂き大変光栄に存ずる。学会の先生方、選考委員の先生方、またこれまでご指導頂いた先生方に感謝申し上げます。特に、このような純然たる基礎研究を学会に評価して頂いたことで、基礎医学も新潟大学医学部の学生諸氏の進路の選択肢に入るきっかけになることに寄与すれば嬉しい。

私は平成20年3月に新潟大学医学部医学科を卒業し、同4月に同大学院に進学し澁木克栄先生（脳研究所システム脳生理学分野）のご指導を受け平成23年9月に博士課程を修了し、現在に至っている。もともと生命とは何かを知りたいと思い医学部に進み、その答えを解くのは生理学だと直感し、学部頃から生理学の先生方のもとでお世話になってきた。初めて研究に触れたのは学部2年の時で、宇宙医学を研究している岐阜大学医

学部生理学の森田啓之先生の実験のお手伝いをさせて頂いた。実験のために警備が厳重な三菱重工の中に入れたり、自ら無重力環境を体験したことは貴重な経験だった。面白いことをやっているせいか、その教室には全国からやる気のある医学部生が実験に参加していて刺激を受けた。ぜひ自分も主体的に研究してみたいと思いつき、本学の板東武彦先生（当時第一生理学）のもとに通い、縁あって4年生から脳研究所の澁木先生の元で勉強させて頂いている。澁木先生はフラビン蛋白蛍光イメージングを發明し大脳皮質機能を研究しておられた。私はそれを用い、大脳の中で音を処理する部位である聴覚野を研究させて頂いた。学部と大学院の期間は、マウスも和音・不協和音を聴き分けており、和音特異的神経活動が聴覚野に出現することを見出した。この研究は現在も継続中である。一方で、堀江正男先生・竹林浩秀先生（第二解剖学）のご協力を得て解剖学的手法を取り入れ、聴覚野地図と聴覚伝

導路の様式を詳細に可視化することに成功し、マウス聴覚野アトラスも出版することが出来た。現時点では、我々は世界で最も精緻にマウス聴覚野を可視化できるグループだと自負している。マウスが神経科学におけるスタンダードアニマルの一つであることに鑑みると、これまでの一連の研究で聴覚野研究の強固な地盤を作れたものと考えている。今後はこの上に聴覚野の physiology を一気に進めて行きたい。



国際シンポでのディスカッション